

# 第14回「文芸思潮」エッセイ賞 発表

第14回  
文芸思潮  
エッセイ賞

二〇一九年度第14回「文芸思潮」エッセイ賞は、再開二年目で前回二六七篇を大幅に凌ぐ三四四篇という多数の応募をいただきました。心から御礼申し上げます。今回も十七歳から九十七歳まで幅広い世代から寄せられ、地域的にもアメリカや、ヨーロッパ、中国など世界各地からも御応募をいただいた、広がりのあるコンテストとなりました。貴重な体験だけでなく、歴史としても重要な記録や、社会に対する鋭い批評も多く寄せられ、現代に生きる人々の様々な姿が反映された豊かな内容でした。

例年の通り、まず選考委員会予選相当による第三次までの予選選考が行なわれ、最後に三神弘、水木亮、都築隆広、五十嵐勉四人の選考委員によって激しく、厳しく討議されました。厳正な審査の結果、以下の通り受賞作が決定いたしましたので、ここに発表させていただきます。

今号には当選作および優秀賞を発表させていただきますが、以後奨励賞なども、極力「文芸思潮」誌上に掲載させていただきたく予定です。御期待ください。

また明年も同じ要領で募集いたします。どうぞ奮って力作エッセイを御応募ください。お待ちしております。

## 「文芸思潮」エッセイ賞

### 最優秀賞

「トドを殺すことは  
自分達を殺すこと」

福島由華里

(北海道札幌市)

### 優秀賞

「継ぎゆくひと」

中村郁恵 (北海道札幌市)

「枕飯」

高橋恵里花 (神奈川県川崎市)

「港の時代」

人間六度 (東京都練馬区)

「少年」

飯島もとめ (長野県長野市)

「暗闇を走る足音」

喜多木常雄 (北海道函館市)

「ピアノ」

武中 彩 (福岡県北九州市)

### 社会批評優秀賞

「少女は何をしていたか」

山家衛良 (長野県上田市)

「癌紀元後の世界」

松岡久仁子 (東京都杉並区)

「天恵戒驕」

荒田正信 (岩手県宮古市)

### 奨励賞

「郵便馬車の鈴は鳴り響いて」

菱川町子 (愛知県稲沢市)

「養老院」

近藤幹夫 (福井県勝山市)

「私の愛したお医者さん」

上坂明美 (北海道函館市)

「介助、赤ちゃん、神と死者」 茂木秀之 (奈良県生駒市)

「医原病と自死」 幸田芳樹 (大阪府東大阪市)

「徒歩十五分、美を探す旅」 八ノ瀬葉子 (大阪府吹田市)

「私の場合」 文月 嵐 (富山県氷見市)

「母の富士山」 村松佐保 (群馬県吾妻郡)

「食む喜び」 豊田崇久 (東京都世田谷区)

「老いの偏屈」 高橋惟文 (山形県山形市)

「『ううん、いいねえ』の意味するもの」

林 須磨 (京都府城陽市)

「貧乏性」 三上悦子 (神奈川県横須賀市)

「人形への恩返し」 押川志保 (福岡県福岡市)

「証」 東野沈惺 (奈良県橿原市)

「台場」 瀧沢 鈴 (北海道函館市)

「真夜中の並走」 灘上文彦 (神奈川県鎌倉市)

「私のヒロシマ」 山崎人功 (長野県安曇野市)

「忘れえぬ『イエスタデイ』」 田中美晴 (大阪府豊中市)

「また、延岡へ」 永野さくら (千葉県大網白里市)

「知り合い以上ともだち未満」 深雪朔 (北海道札幌市)

## 佳作

- 「墓に手鏡を手向けたい」 梶木牙氣
- 「カエル」 田中浩司
- 「さまよう猫たち」 高岡啓次郎
- 「札幌ラーメンの思い出話」 中村行寿
- 「酒は微薫に止むべし、じゃ」 阿久根ケン
- 「猿の脳みそ」 林勢津子
- 「ザンビアの夜」 松原泰子
- 「平成の大震災（苔むした石碑）」 渋谷江津子
- 「幻覚の色彩―こわして、気づいたこと―」 高橋和彦
- 「トイレの月」 マツイアキラ
- 「『介護しない』という選択肢」 望月ひろこ
- 「会えて良かった」 上杉 辰
- 「パリでの思い出」 嬉代子
- 「十五歳の春の友」 寒川靖子
- 「詫び」 斉藤はな絵
- 「人魚姫は発達障害」 愛甲無子
- 「結婚二年目の悪夢」 藤井典央
- 「失敗覚悟の結婚」 椿 真奈美
- 「縁は異なるもの」 シンジ
- 「もの言う背中と一枚皮」 小林きみ子
- 「ヤブもまた名医」 柴田節子
- 「猫と私」 高谷紀久子
- 「ボジティブに生きる男からの教え」 須貝 誠
- 「いい日旅立ち」 瀬戸清子
- 「『団塊の世代』を生きる」 熊谷一郎
- 「ガラスの心」 飛鳥涼子
- 「オリンピックの季節の後で」 大島直次
- 「ひとりぼっちで旅立っていった、母への懺悔」 墨島礎
- 「夫婦のかたち」 だいちゃん
- 「冷たい手」 牧 康子
- 「最期の幸せ」 金田一 淳
- 「蠟梅」 橘いずみ
- 「クリスマスローズ」 下村きよ子
- 「ステンレス鋼」 小倉一純
- 「父のメモ帳」 水島恵子
- 「夢のちよつと手前の場所」 森岸真鳴
- 「知らない海」 山本ワタル
- 「神社の境内で」 山田葉月
- 「心の相続」 坂元淳子
- 「魅力ある美的指向を目指して」 大出光一
- 「K子さんのプライド」 富田真子
- 「霊は幻か実体か」 西島雅博
- 「宣誓」 カトトシ
- 「父」 石井良武
- 「また来ます」 此木ミツル
- 「ピアノと困った顔の物語」 流川千里
- 「幾代伯母」 青柳みすず
- 「アザ」 下釜美和子
- 「あの日から二〇二一年三月二日」 吉田宏子
- 「母の長い眩き」 靱島彊子
- 「二十年後の約束」 草野修一
- 「私の南極ものがたり」 森岡 昭
- 「義母の生き方」 田中 誠
- 「ワルナ ワルニ」 不破しまと

## 社会批評

- 「阿久悠となかにし礼に見るライバル関係」 弟子丸博道
- 「ものの見方」 北御門 涼
- 「スーパージティ」 藤井杏子
- 「映画『ゲッベルスと私』」 熊谷和代
- 「西郷も大久保も喜んでいる」 宮島孝男
- 「スキマのこと」 浦島智緒
- 「ボビュラー映画、どこへ行く」 井口海斗
- 「贈り物に込める」 高岡隆一郎
- 「失われた尊厳」 森崎律子

入選

- 「戦争の悲劇」 岩谷隆司
- 「不器用」 九条之子
- 「チョコレートと涙」 池上 蓮
- 「能面アクトレス」 吉村紗菜
- 「母が私を描写した」 黒川路子
- 「『精神を病む』ということ」 森 惇
- 「箱」 寿々木
- 「白日」 華央子
- 「長女に仕返し」 紙屋里子
- 「整形外科の病室」 早月春美
- 「長崎の鐘」 森千恵子
- 「農作業に汗する男」 佐藤義弘
- 「猫奮闘記」 河井みかこ
- 「初めての広島、今でも蘇る」 折乃笠公徳
- 「六十九歳」 田中恵子
- 「定年後の生き甲斐」 矢口慎三
- 「未知との出会い」 宮尾美明
- 「母からの贈り物」 久保田鶴子
- 「恨みに恨んだ父母との関係」 Kotori
- 「任運騰騰」 三浦洋子
- 「声」 夏 熱田
- 「崩壊」 中武 寛

社会批評

- 「決断」 うらやすうさぎ
- 「夢の萌芽」 佐藤勝美
- 「父の散髪」 ブン・ブンコ
- 「小学生のシニョリッジ」 相良勇次
- 「生きた記憶と奇跡の日々」 蘇芳夏生
- 「知らずを知る」 水野由貴
- 「人生を変えた一本のビデオ」 佐藤清助
- 「南海に散華した父」 川口正浩
- 「父と子」 上野 達
- 「優しい雷」 菊池満子
- 「ミルク」 大神田由美
- 「ろうそく一本消えるまで！」 鈴木正治
- 「ジイジとシユン」 片山二郎
- 「コーヒーの私から紅茶の私たちへ」 房田小百合
- 「遅れてきた葉書」 高澤宏至
- 「四十過ぎ、コールセンターのバイトとホルノ映画館の一日」 鈴木あきら
- 「『豚天使』任命」 櫻川ふみ
- 「喫茶店客のマナー教育」 前岡光明
- 「なぜ『聴覚障害は特殊過ぎる。』と言われるのか？」 横山典子
- 「失業にともなって」 紀美子イエガー
- 「パラリンピックの現状を杞憂する」 徳安利之
- 「限界集落」 川畑和嗣